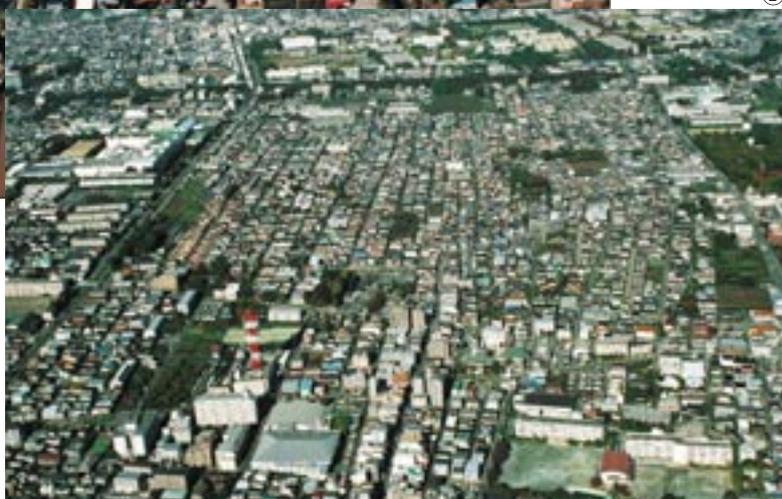


# 1 集落景観分析への一試論（本文参照）



①



②

① 藩政期の開拓新田村の一例．埼玉県所沢市付近（撮影2003年11月．以下撮影年月は3，4桁の数字にて略記）

② ①のタイプの農村に宅地化がすすむ．当初の地割をほとんどなぞる形で景観が変わっていく．東京都西郊（03.11）



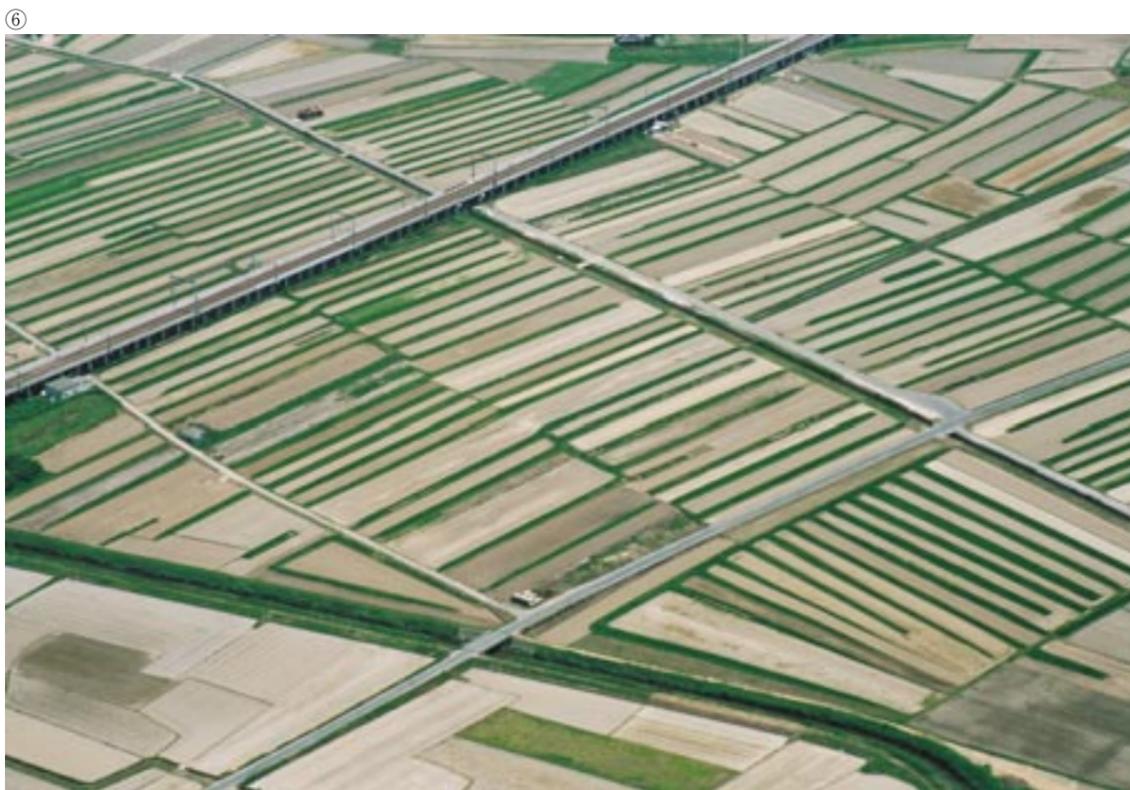
③



④



⑤



⑥

③～⑥ 岡山平野の耕地と水、あるいは③川を溝に封じこめて耕地を増やし、あるいは④水面として残し、あるいは⑤掘上げ田として水とつきあう。⑥は⑤の右上方の拡大。⑥の画面左上を斜めに走っているのは山陽新幹線の高架。(04.6)



⑦



⑧



⑨

⑦ なぜか基盤整備を受けつけない土地の一角がある。これもひとつの人間の意志。(青森県下北半島南部 01.11)

⑧ 屋敷地と菜園畑と屋敷林は、他の周囲の耕地とは明らかに性格がちがう、というあたりまえのことを語っている景観。基盤整備の線にはのらない。(埼玉県南部 87.5)

⑨ 平地林を耕地に拓く。(埼玉、栃木両県境付近 03.11)

⑩ ひとつひとつの土地の区画、形状、土地利用、植生などの違いはその背後に各々意志を潜ませている(岡山市郊外 04.6)

⑩





⑪



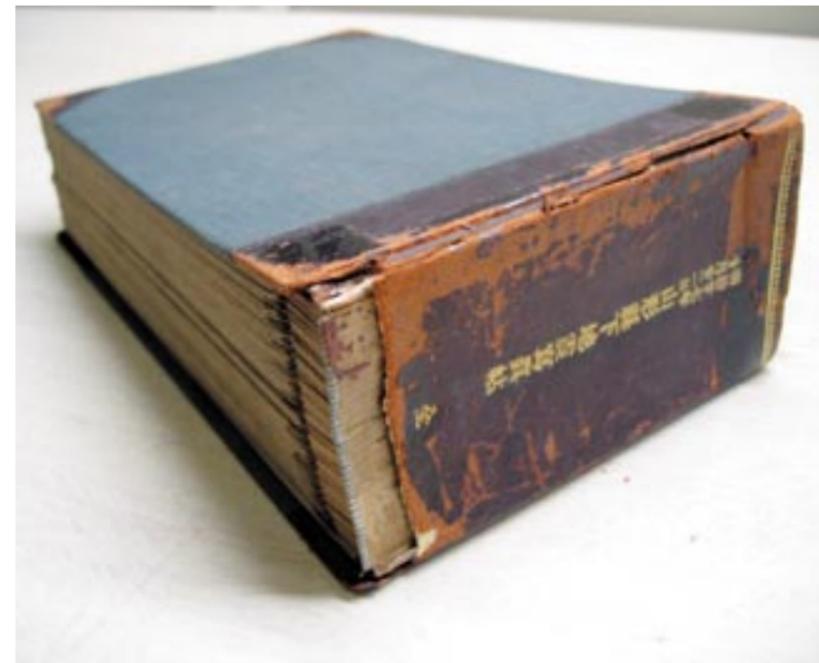
⑫



⑬

⑪～⑬ 秋の下北半島。山への針葉樹の植林という人の意志がはっきりと形を見せる。⑪ひとすじの谷田をはさみ針葉樹の深緑と広葉樹の紅葉との対照があざやかである。集落背後の山への植林も、⑫すぐ背後の山からすすめ、奥山も短冊状の土地割単位にすすんでいる例もあれば、⑬そのようなルールがよみとれない集落の例もある (01.11)

2 災害と写真メディア —— 1894年庄内地震のケーススタディ —— (本文参照)



⑭



⑮

⑭, ⑮ 「山形県下地震写真帖」(独立行政法人国立科学博物館蔵) 布張り, 背皮, 11.5×18.0cm, これらの写真は震災予防調査会が庄内地震発生(1894年10月22日発生)直後, 派遣した帝国大学理科大学地震学教室の教授, 学生などの調査団によって撮影されたものである。1891年の濃尾地震以後, 急速に地震現象などが写真に収められることが普及した。しかし, 庄内地震の写真は濃尾地震に比べると, 残されている写真は極めて少ない。これはサイアノタイプと呼ばれ, 当時の一般的な白黒写真より廉価で焼き付けることができたものであるという。



明治三十二年三月  
庄内地震実見絵巻  
生駒大飛作  
酒田有形文化財  
昭和三十八年指定  
大飛の父は本荘藩家老職  
を歴任し、自身は画工として大坂で南画を学んだ人物。1894年震災当時酒田に居て、地震を経験、その光景が忘れられず、翌年3月地震惨状を画に仕立てた。切り取られた画面のすべてを最大もらさず画面に取り込む写真とは異なり、描くべき対象のみを描く絵画の力を感じさせる。

⑩ 生駒大飛作「震災実況図」(酒田市立光丘文庫蔵) 酒田市有形文化財 昭和38年指定, 25.5×915cm, 生駒大飛(1857-1922)による庄内地震の実見絵巻。大飛は、父は本荘藩家老職を歴任し、自身は画工として大坂で南画を学んだ人物。1894年震災当時酒田に居て、地震を経験、その光景が忘れられず、翌年3月地震惨状を画に仕立てた。切り取られた画面のすべてを最大もらさず画面に取り込む写真とは異なり、描くべき対象のみを描く絵画の力を感じさせる。





3 写真資料と景観変容——渋沢フィルムの分析にむけて——（本文参照）



⑰



⑱



⑲

⑰ 灘五郷：阪神淡路大震災直後の酒蔵の景観。現代的な貯蔵施設もダメージを受けた。（1994.1撮影）本文Ⅲ-1参照

⑱ 灘五郷：酒蔵崩壊後露出した仕込みタンクや貯蔵タンク群。（1994.1撮影）

⑲ 灘五郷：崩壊した酒蔵。（1994.1撮影）



20



194 2 3



23



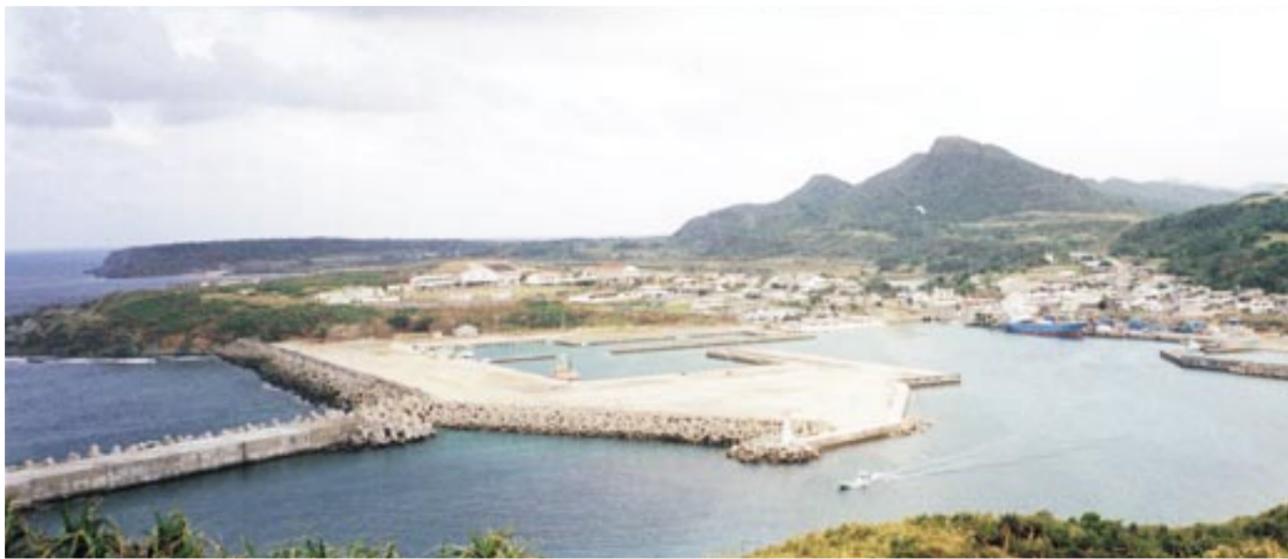
21



194 2 3



24



22



194 2 3

- 20 整備された祖内集落（与那国島 1994.2 撮影）
- 21 整備された圃場と水路（与那国島 1994.2 撮影）
- 22 整備された港湾（与那国島祖内港 1994.2 撮影）
- 23 灘五郷：がれきの撤去中の酒蔵。（1994.1 撮影）
- 24 マイントピア別子：別子銅山跡に作られた博物館・観光施設。



㉕



㉖



㉗

- ㉕ 新居浜駅前：都市再開発が進行中。
- ㉖ 新居浜港：貨物船と化学薬品プラント。
- ㉗ 新居浜港：銅製錬から化学工業地域へ景観変化が見られる。

#### 4 海外神社跡地に見る景観の変容（本文参照）

戦前，アジア地域に建てられた神社（海外神社）は，現在判明しているものだけでも1600余社にのぼる。海外神社には，官幣大社朝鮮神宮，同樺太神社，同南洋神社など，日本国政府により，その地域の統治のシンボルとして建てられた「政府設置（奉斎）神社」と，海外に移住した日本人が厳しい生活の安穩を祈願する為に建てられた「居留民設置（奉斎）神社」の2種類があった。1930年代以降には，海外神社は全体として，現地人の「皇民化」にも大きな役割を果たした。



㉘ 官幣大社朝鮮神宮の大石段と社号標  
 (『恩頼 朝鮮神宮御鎮座10周年記念』, 1937年11月, 朝鮮神宮奉賛会編, 72頁)



㉙ 官幣大社朝鮮神宮の参拝風景  
 (『民草競う』というキャプションが付けられ, 「朝鮮の人にも敬神の思想が普及されて, 拝殿に拍手を打って参拝する者が多くなった」と解説している。『同』130頁)



㉚ 旧樺太 真岡支庁下, 野田神社再建の年の祭典記念  
 (海外への移住者にとって, 神社は「内地」の人以上に重い意味を持っていた。『樺太野田町慕情』, 1977年10月, 佐藤彦雄編, 樺太野田小学校同窓会野田白樺会, 全国樺太連盟提供)



㉛ 旧台湾 花蓮港庁下, カウワン祠での神前結婚式時の記念写真  
 (先住民タロコ族, 撮影年不詳, 筆者所蔵)



神社跡地は、今日、人の手が加えられ、様々に「改変」させられて利用されている場合も多い。公園や教会・寺院・廟などの宗教施設、あるいは忠烈祠、墓地、さらには記念碑・記念堂、学校、病院、会社などである。

㉔ 旧台湾 花蓮港庁下、天主教会に「改変」された新城社  
(2基の鳥居、燈籠8基、狛犬4体、本殿基壇など残存。本殿基壇の上にはマリア像が立っている)



㉓ 旧満州 新京（長春）、幼稚園に改変された新京神社  
(鳥居、本殿などが残存)



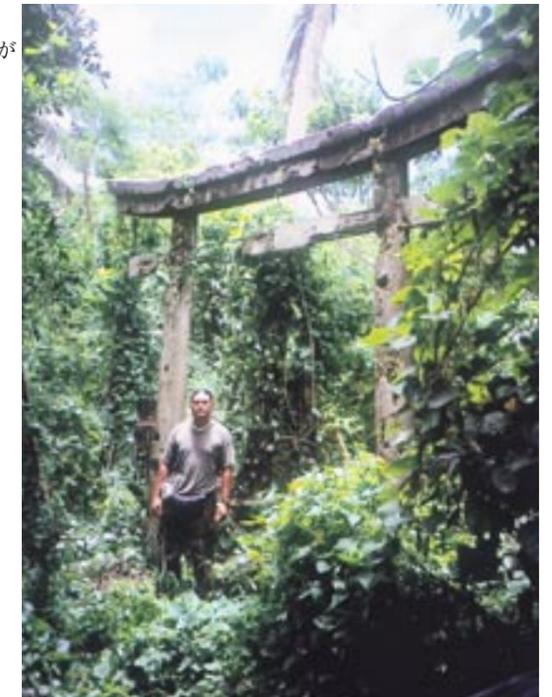
㉔ 旧樺太 真岡支庁、サハリン郵船会社が建つ真岡神社跡  
(石段、石組側壁、手水鉢、燈籠基壇などが残存)



神社跡地が、そのまま「放置」されている例も多い。南方地域では、完全にジャングルの中に埋もれてしまったために鳥居、燈籠、手水鉢、社殿の基壇などがそのまま残っているものも多い。

㉕ 旧樺太 泊居支庁下、泊居神社跡  
(2基の鳥居、4基の燈籠基壇、社殿基壇、忠魂碑、戦勝記念碑等が残存)

㉖ 旧南洋群島サイパン島、泉神社の鳥居  
(社殿基壇、鳥居、燈籠基壇2つ、石段などがジャングルに埋もれている)



㉗ 旧南洋群島サイパン島、カラベラ神社本殿基壇  
(㉖の写真と同様、この写真は雑木・雑草をある程度切り払った後に撮ったものである。社殿基壇、燈籠基壇10個、手水鉢、鳥居台石、太鼓橋等がジャングルに埋もれている)





海外神社の中には「再建」された神社もある。いずれも、旧南洋群島に建てられた神社で、1980年代以降に「再建」された。テナアン島に1社、サイパン島に2社（以上、現北マリアナ諸島連邦）、コロール島に1社、ペリリュウ島に1社、アンガウル島に1社（以上、現パラオ共和国）の計6社である。

㉞ 旧南洋群島 サイパン島、彩帆香取神社「再建」された彩帆神社  
 (全て新しく建てられたもので、旧神社の遺物としては、損壊した社号標、燈籠等があるだけである)



㉞ 旧南洋群島 コロール島（パラオ）に建てられた官幣大社南洋神社の鳥瞰図  
 (現在、この境内の大部分が個人の所有地になっており、私邸も建てられている。『官幣大社南洋神社御鎮座祭記念写真帖』、1941年6月、官幣大社南洋神社奉賛会編、1頁)



㉞ 「再建」された、旧官幣大社南洋神社  
 (「鳥瞰図」の左上、二の鳥居の左側、拝殿・本殿部分の石段・基壇の上に「再建」された)



㉞ 旧南洋群島 ペリリュウ島、旧ペリリュウ神社跡地の近くに再建されたペリリュウ神社